

令和6年度文京区障害者地域自立支援協議会

第3回子ども支援専門部会 次第

日時 令和6年10月30日(水)午後2時開始

会場 文京シビックセンター3階 障害者会館会議室C

1 開会

2 議題

(1) 令和6年度子ども支援専門部会研修会振り返り、来年度の研修会について

【資料第1-1号】【資料第1-2号】

3 その他

【参考資料】

・令和6年度 文京区障害者地域自立支援協議会子ども支援専門部会会員名簿

令和6年度
子ども支援専門部会研修会振り返り

来年度の子ども支援専門部会について

文京区障害児支援ネットワーク
文京区障害福祉課

研修会「切れ目のない支援を実現するために～ 教育と福祉の連携と課題～」

(1) 話題提供・質疑応答

「教育と福祉が切れ目のない支援を実現するために～文京区の現状と課題～」

教育センター、教育指導課、就労支援センター、大塚生活あんしん拠点

(2) グループワーク

<参加者>

教育関係者（区立小中学校教諭、管理職、特別支援学校教諭等） 38名

教育センター（スクールワーカー、スクールソーシャルワーカー等） 19名

福祉事業所（区内放課後等デイサービス、児童発達支援、相談支援事業所等） 29名

その他 12名

総合計 98名

研修会アンケートについて

アンケート集計

- 話題提供については、今後の業務の参考（関連知識の幅が広がったなど）となりましたか？
 - 参考になった75%、やや参考になった25%
- グループワークについては、今後の業務の参考となりましたか？
 - 参考になった70%、やや参考になった25%、どちらともいえない5%
- 時間配分は適切でしたか。
 - 適切だった50%、やや適切だった50%
- 第2回を開催した場合、参加したいと思いますか？
 - また参加したい95%、どちらともいえない5%

アンケート分析

- 全ての職種で多職種連携の重要性についてのコメントがあった
 - 「いろいろな職種の方とお会いできて、まさに点と点がつながった感じでした」
 - 「それぞれの立場でできること・できないことを互いに理解した上でつながれたら、ものすごく力強い連携になるんだろうなあと感じました」
- 次に顔の見える関係づくりについてのコメントが多かった
 - 「グループワークで知れたのは1ヶ所だけでした。勿体ないなと感じました。生の声を聴かせていただけたらいいなと思います」
 - 「教育現場の方と直接お話し出来る良い機会となった」
- 教諭の立場の方により良い支援について学びたいことに関するコメントが多かった
 - 「よりよい支援について、様々な立場から考える機会があれば、また参加したい研修です」
 - 「参加した事で、もっと知識を高めたい気持ちがさらに強くなりました」
- その他のコメント
 - 事前にグループが決まっていたので、どこの席に座るか迷う時間がなくてよかった。
 - 最後の有識者の先生のお話をもう少し聞きたかったなあと感じました。
 - 1人では難しい、チーム力が大事と感じていますが、なかなか同じ気持ちで進めることが難しく、苦労している。

グループワークにおける意見について

グループワークで出た「縦の切れ目」

1. 幼児期から小学校への切れ目

保育園・幼稚園から小学校への移行で情報共有が不十分。障害特性の認識や療育の途切れが問題。

2. 小中高等学校間の切れ目

学年ごとの引き継ぎが不足。中学校・高校への進学時に情報が途切れる。

3. 18歳の支援の切れ目

18歳を迎えると支援サービスが変更され、連携が不十分になる。そのために、もっと早期から繋がる必要。

4. 成人後の社会適応の課題

グレーゾーンのケースで支援者と繋がり難く、社会適応が難しくなる。成人後の居場所の問題。65歳の切れ目。

グループワークで出た「横の切れ目」

1. 教育・福祉（相談支援・児発・放デイ）・医療機関同士の切れ目

学校と医療機関、福祉サービス間の連携が不足。機関ごとにアセスメント方法や子どもの理解に違いがあり、支援が一致しない。放課後デイの内部実態が見えない。居場所が少なく、特に医療ケアが必要な子ども向け施設が少ない。

2. 保護者支援の課題

保護者同士の繋がりが少ない。保護者の理解不足が支援の遅れに繋がる。保護者の意見や思いが優先される。

3. 情報の切れ目

制度を知らない、相談のハードルがある。就学相談資料が民間と公的機関で切れ目がある。子どもの個人情報の引き継ぎに困難がある。子ども期と成人期で支援者同士の繋がりが途切れやすい。

4. 保護者の気持ちと子どもの気持ちの切れ目

保護者の意見や思いが優先されるが、子ども自身の気持ちとの切れ目が存在する。保護者が子どもの特性に気付かず、支援を受けることが遅れる場合がある。保護者の理解度や関心により、手厚い支援につながるかどうか左右される。

グループワークで出た「資源・強み」

1. 福祉・相談支援の資源

相談支援、総合相談、基幹、拠点など、地域で相談できる場が増えている。

2. 学校・教育の資源

教育委員会を中心とした保幼小中連携、学校でのSC、SSWの活用、学校生活支援シートの活用、校内委員会の活用、ケース会議や部会・連絡会の実施

3. 地域資源・居場所の資源

子ども食堂、B-Labo、こまじいの家など文京区は社会資源が多い

4. 保健・医療の資源

東大病院、日医大病院など地域病院の存在、乳幼児健診での支援、地域病院・小児科で知識の共有化。

5. 家庭や保護者の強み

保護者が教育に熱心で、経済力があり、子育て支援のサロンも活用されている。

6. その他の人的資源

各分野の専門家が充実している。

なぜ、これだけ資源があるのに、切れ目があるのか？

「切れ目」を「繋ぎ目」にする視点は？

グループワークで出た「知恵・提案」

1. 顔の見える関係作り

学校、放課後デイサービス、福祉機関、医療機関が顔の見える関係を築くことで、情報共有が円滑に進み、子どもや保護者が安心して相談できる環境が整う。支援者同士の信頼関係が、より質の高いサポートを可能にする。

2. キーパーソン作り

各機関をつなぐキーパーソンが子どもと家庭を一貫してサポート。特に長期的な視点での情報管理や引き継ぎを担当し、親や支援者の負担軽減に寄与する存在となる。

3. 個人情報 を考慮した情報共有の仕組み作り

個人情報保護に配慮しつつ、アセスメントシートや個別支援計画を活用して支援者間での円滑な情報共有が重要。親の同意を得た上で、必要な情報を統一して管理し、各機関間で適切に活用できる体制を整えることで、子どもの状況やニーズに即したサポートが可能となる。

4. 人材育成

長期的に関われる専門職を育成し、職員の研修を通じて支援の質を向上させる。また、各機関をつなげる専門知識を持った人材が必要で、持続的なサポート体制を確立する。

5. 医療の活用

学校や福祉と医療機関との連携を強化し、アセスメント結果や療育の情報を共有する仕組みを構築する。医療的ケアが必要な子どもへのサポートや、医療機関と教育機関の協力が不可欠である。

議案

- 来年度も研修会を開催するか？その場合のテーマ、研修会の開催の仕方は？
- グループワークから導き出された提案を今後どのように活かすか？

職種	カテゴリー	コメント
スクールカウンセラー	他職種連携の重要性	初めて知る内容もあり、他職種の方々がどのような問題意識をお持ちでいらっしゃるか聞くこともできて、とても勉強になりました。
スクールカウンセラー	他職種連携の重要性	グループワークは話が盛り上がり、時間が足りないくらいでした。
スクールカウンセラー	他職種連携の重要性	色々な現場の方がいらしていたので、利用可能な資源や実現できそうな改善策について、もっと具体的にシェアできればなお良かったかなと感じました。
スクールカウンセラー	他職種連携の重要性	いろいろな職種の方とお会いできて、まさに点と点がつながった感じでした。
スクールカウンセラー	他職種連携の重要性	文京区に勤め始めたばかりで、様々な業界の話が聞けてとても参考になりました。
管理職	他職種連携の重要性	それぞれの機関や施設が何をされていて、どう活用できて、どんな連携できるのか？ご紹介いただくと連携の幅が広がると思いました。
管理職	他職種連携の重要性	知っていれば繋げることができるのに、「知らない」ことが多すぎて、お互いがうまく活用しきれないし、連携もできません。「知る」ということにフォーカスした研修をぜひ行ってほしいと思いました。
教諭	他職種連携の重要性	福祉、心理、学校という3者の連携が非常に難しいことも感じます。
教諭	他職種連携の重要性	普段接点を持ちにくい方々と違う視点から話ができてよかったです。
教諭	他職種連携の重要性	様々な立場の方と話し合えたのはいい経験になりました。ありがとうございました。
障害福祉サービス事業所	他職種連携の重要性	子どもが長い時間を過ごす学校での様子を知りたい、学校と放課後等デイサービスで子どもの課題や支援等を共有できたらと思っていたので、今回は連携につながる第一歩と感じた。
特別支援学級教諭	他職種連携の重要性	学校関係だけでなく、普段あまり関わりのない福祉サービス事業所の方などとお話する機会があり、とても新鮮な気持ちで研修を受けることができました。
特別支援学級教諭	他職種連携の重要性	それぞれの立場でできること・できないことを互いに理解した上でつながれたら、ものすごく力強い連携になるんだろうなあと感じました。
特別支援教育指導員	他職種連携の重要性	区内の教育・福祉・地域が連携する事により区民1人1人にとって選択肢の幅が広がる事は間違いないと感じました。
スクールカウンセラー	顔の見える関係づくり	他職種の方と実際に顔をあわせてお話しすることができて、たいへん有意義な時間でした。
管理職	顔の見える関係づくり	グループワークで知れたのは1ヶ所だけでした。勿体ないなと感じました。生の声を聴かせていただけたらいいなと思います。
教諭	顔の見える関係づくり	心理や福祉の観点を素直に普通に受け止めることができる、一緒に協働できる学校へ...と願う気持ちがますます強くなる時間でした。だからこそ、広げる意味、一堂に会する場が必要と感じました
障害福祉サービス事業所	顔の見える関係づくり	教育現場の方と直接お話し出来る良い機会となった。
特別支援学級教諭	顔の見える関係づくり	様々な立場の方からお話を聞いたり、一緒にグループワークしたりすることができた。
教諭	より良い支援について学びたい	もっと勉強しないと様々な児童に対応できない
特別支援学級教諭	より良い支援について学びたい	今回は「切れ目のない支援」がテーマでしたが、出来ることならばテーマの内容に限らず、様々な立場の方々の現在の困り感や支援で工夫している事などを聞いてみたかったです。
特別支援学級教諭	より良い支援について学びたい	よりよい支援について、様々な立場から考える機会があれば、また参加したい研修です。
特別支援教育指導員	より良い支援について学びたい	参加した事で、もっと知識を高めたい気持ちがさらに強くなりました。 是非、私達のような現場で向き合っている指導員にも知識向上の機会となるような研修実施をお願い致します。
その他福祉関係者	その他	事前にグループが決まっていたので、どこの席に座るか迷う時間がなくてよかった。
教諭	その他	最後の有識者の先生のお話をもう少し聞きたかったなあと感じました。
教諭	その他	1人では難しい、チーム力が大事と感じていますが、なかなか同じ気持ちで進めることが難しく、苦労している。

令和6年度 文京区障害者地域自立支援協議会子ども支援専門部会員名簿

No.	氏名	所属等	区分
1	高山 直樹	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科教授	学識経験者
2	荻野 美佐子	上智大学総合人間科学部心理学科名誉教授	学識経験者
3	内海 裕美	小石川医師会会長（吉村小児科院長）	医師
4	向井 崇	放課後等デイサービスカリタス翼 管理者兼児童発達支援管理責任者	事業所等職員
5	勝間田 万喜	富坂子どもの家 管理者兼児童発達支援管理責任者	事業所等職員
6	高山 陽介	わでかくらぶ代表	事業所等職員
7	内田 千皓	相談支援事業所やえ相談支援専門員	事業所等職員
8	町田 寛子	都立王子特別支援学校 特別支援教育コーディネーター	都教員
9	鶴沼 苗子	久堅保育園長	区職員
10	川崎 洋子	子ども家庭支援センター児童相談係長	区職員
11	加藤 たか子	保健サービスセンター保健指導係長	区職員
12	高橋 拓也	教育指導課統括指導主事	都教員（区費負担指導主事）
13	井上 アヤ乃	教育指導課特別支援教育担当主査	区職員
14	小野寺 素子	教育センター総合相談係長	区職員

事務局	文京区障害福祉課障害福祉係
-----	---------------